

# 2019年度採択 資金分配団体 プログラム・オフィサー（PO）研修

## 評価パート③

2020年11月25日

一般財団法人CSOネットワーク



**JANPIA**

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

本講座の資料は、JANPIAの委託により、一般財団法人CSOネットワークの責任のもと、以下のメンバーによって作成されました。  
今田克司、千葉直紀、大沢望

## 2日間（11/24, 25）の到達目標



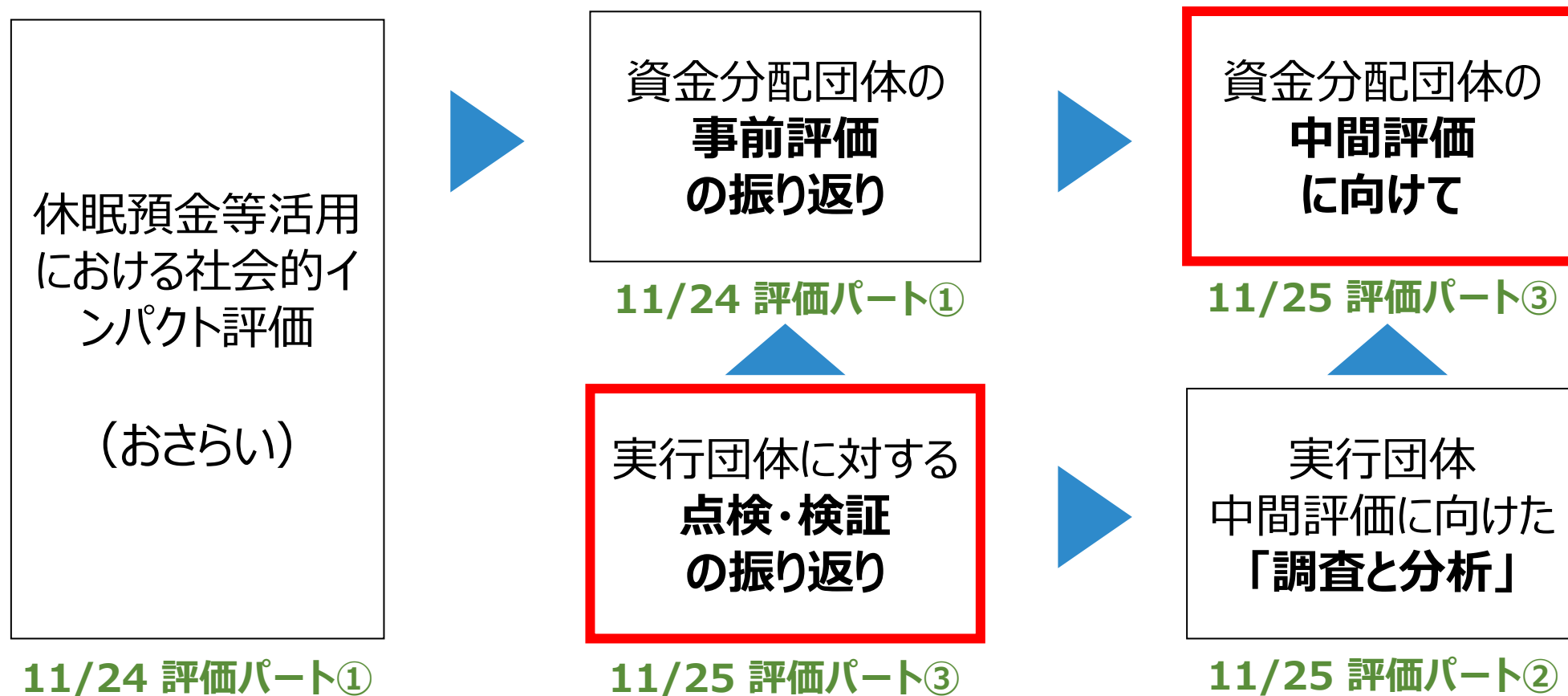
2日間の評価パート（①～③）の到達目標は、以下です。

- （A）資金分配団体としての「現在地」を、改訂した事業計画や評価計画の現状、中間評価の位置付けやそれに向かう作業工程で確認する。**
- （B）資金分配団体同士が、事前評価を振り返り、お互いの実践の様子や工夫、課題感などを共有することで、現場に活かせる気づきを得る。**
- （C）社会調査と分析の基礎を学び、特に実行団体にとっての中間評価に向けた準備の伴走ができるように用意する。**

# 2日間（11/24, 25）の構成



2日間の評価パート（①～③）の大まかな構成は、以下です。



1. 【講義&事例】点検・検証について 30分
2. 【講義】中間評価に向けて 40分
3. 【ワーク&全体共有】中間評価に向けて 40分
4. 【クロージング】 5分

\* 間に休憩を 5 分間入れます。

1. **【講義&事例】点検・検証について 30分**
2. **【講義】中間評価に向けて 40分**
3. **【ワーク&全体共有】中間評価に向けて 40分**
4. **【クロージング】 5分**

\* 間に休憩を 5 分間入れます。

## (2) 評価結果の点検・検証

資金分配団体は、各実行団体の評価について、その結果の妥当性・客観性を担保し、評価結果の有効活用を促すために、評価内容の点検・検証を行います。検証するにあたっては評価の5原則が活用できます。資金分配団体は、実行団体が評価計画を策定する段階から、実行団体とともに評価の5原則に則った内容が検討されているか評価表に沿って点検・検証します。事前、中間、事後の段階の実行団体の評価結果についても、同様の観点から検証し、改善提案（事前、中間評価のみ）、そして評価結果の具体的な有効活用について提案を行います。特に、評価結果の点検・検証においては妥当性・客観性などについて、実行団体と対話をすることが大切です。この対話による確認後、資金分配団体の立場からも納得しうる内容であるかを検討し、最終的な検証結果を取りまとめます。資金分配団体と実行団体の見解に相違がある場合、相違点を明示し、併記することが望まれます。この対話に、他の事業関係者（事業の対象者など）が参加することで、信頼性や妥当性がより担保されます。

資金分配団体は、各実行団体の評価報告について点検・検証を行うにあたり、実行団体の計画書類・報告書を読み、評価の実施方法について理解します。

評価計画書や評価報告書の内容から妥当性や客観性を判断できない場合、実行団体に聞き取りを行い、それらを把握した上で報告します。



点検・検証のフォームは、以下の通りである。

**表 1 : 評価5原則に基づく点検・検証**

多様な関係者の参加、連携、協働について
信頼性について
透明性について
重要性について
比例性について

**表2 : 点検・検証結果の活用**

実行団体の評価実施に対する提案
実行団体の事業実施に対する提案



**表 1 : 評価5原則に基づく点検・検証**

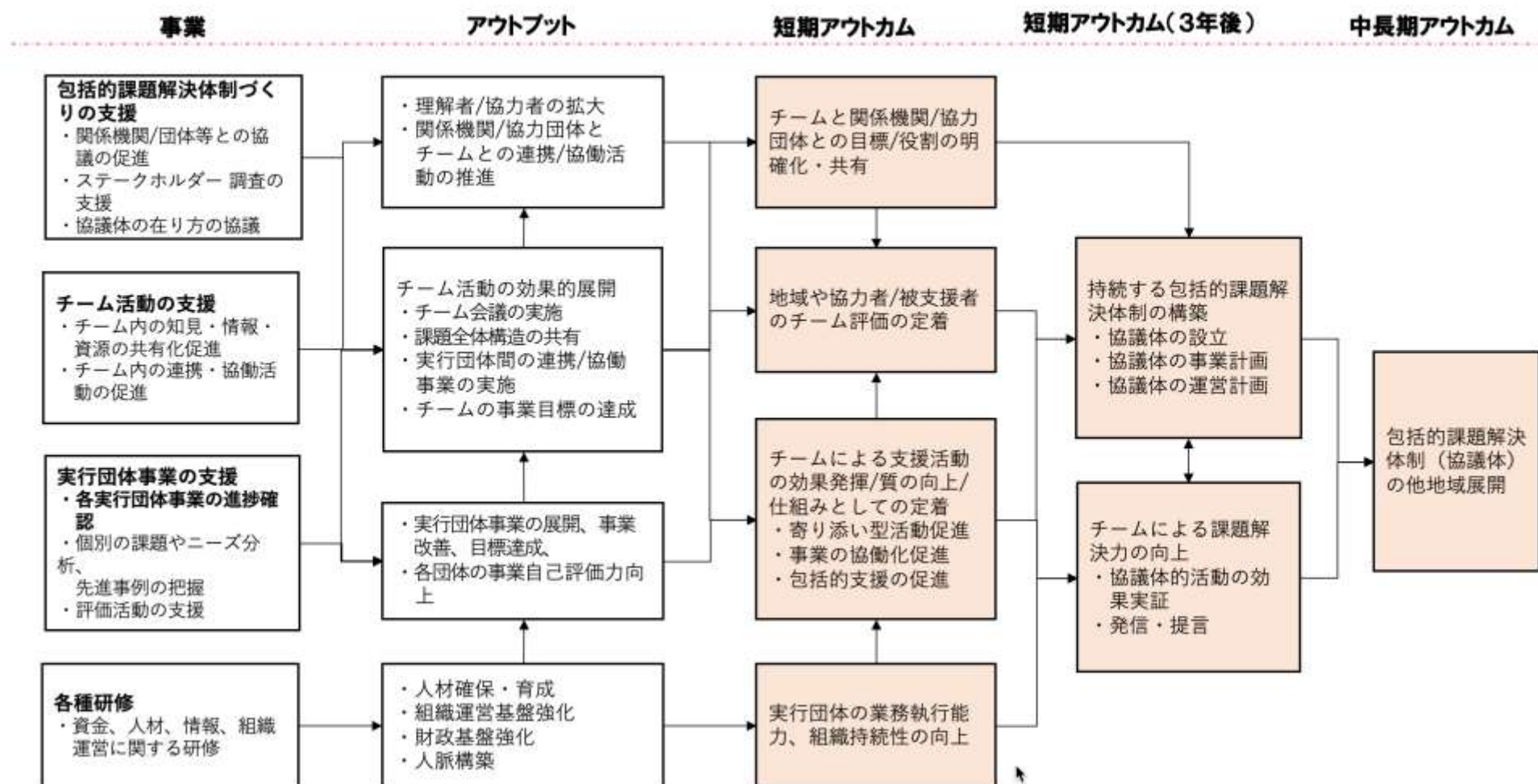
多様な関係者の参加、連携、協働について
対象となる組織・事業に係る多様な関係者の幅広い参加・連携・協働により、目指す 価値や評価の目的などについて、関係者間で合意形成されているか。
信頼性について
信頼性のあるデータ(繰り返し測定しても測定結果が安定していること、一貫性のある データなど)であり、信頼できる方法で収集されているかなど、データは適切であるか。
透明性について
実施過程での活動状況や用いた調査の方法、成果などについて正確かつ誠意ある情報 開示、説明や報告がされているか。透明性が高いということは、評価プロセスが明記 されており、評価結果に至った経緯について外部者が理解できるということである。
重要性について
事業を遂行する上で重要な事項は何か、組織内外の関係者の意思決定に役立つ事項は 何か、特に関係者が重要と判断している項目は明確化されているか。
比例性について
組織や事業に過度な負担をかけないように、組織や事業の規模、組織が利用可能な資 源(予算・人員・時間など)や個別の評価目的に応じた評価方法や報告・情報開示の 方法が選択されているか。

## 表2：点検・検証結果の活用

実行団体の評価実施に対する提案
実行団体の中間評価実施に対して、評価計画中の測定方法の修正など、表1の結果を受けて具体的な提案を記載して下さい。
実行団体の事業実施に対する提案
事前評価結果を受けて、実行団体の事業計画（活動、アウトプットなど）の改善や留意点など具体的な提案を記載して下さい。

## 事例：中部圏地域創造ファンド NPOによる協働・連携構築事業（最新版）

**CCF NPO**の協働・連携構築事業 ロジックモデル（評価委員会後）2020.6.30



# 事例：資金分配団体 中部圏地域創造ファンド／実行団体 アイダオ

「…」以降は、システム出力の結果、非表示であったため、本資料にも反映できず

実行団体	特定非営利活動法人アイダオ
資金分配団体	一般財団法人中部圏地域創造ファンド
事業名 (実行団体)	孤独を生み出さないための居場所作りの整備
自己評価 の総括	<b>不登校または不登校傾向にある小・中学生を取り巻く現状と課題が、地域の中でどのように浮かび上がってきているのか、また浮かび上がれずいるのかについての把握に努めました。</b> まず不登校児童の現状については、内閣府が発行する『子供・若者白書』での報告や、長野県こども・若者支援総合計画で数値化されているものだけでは映しきれない多様な背景があることがわかりました。実際ヒアリングを通して、友人関係とのトラブル、または教職員や学校をめぐる問題や、家庭にかかる状況等、きっかけは多種に渡る中で、それらを引き起こす背景は記載した要…
多様な関係者の 参加、連携、協 働について	不登校、孤立しがちな子どもの支援に関わる関係者において、東信地域の各自治体（長野県、上田市、小諸市、東卸市）の教育委員会、学校関係者（中間教室の担当者など）、子ども若者支援団体、当事者家族、小劇場など多様な立場の人たちの元に出向いてヒアリングをしたことにより、 <b>課題に関する実態や要因について理解を深めること、事業の目指す価値について共通理解をつくること</b> ができた。さらに、事業に対して好意的な反応が得られ、協力していただける関係をづくりも進めることができている。
信頼性 について	文献調査は、内閣府『子供・若者白書／平成30年度版』調査、『長野県子ども・若者総合計画2018年度～2020年度』など、複数用いて課題の状況や構造を捉えている。また、ヒアリング調査は、上記の通り、教育委員会や学校機関の担当・責任者と話し合うことができおり、また、小劇場や当事者家族への聞き取りによって、従来にない居場所のあり方についても考察が加えられており、 <b>偏りなく信頼性の高い情報源</b> となっている。
透明性 について	子ども・若者の支援の実績がある課題実行団体の侍学園が調査設計のアドバイスをを行い、適切な調査方法が選択されている。また、東信子ども若者サポートステーションの担当者にヒアリングに同行してもらうことで円滑に調査が実施され、理解や協力など事業実施に向けた有益な成果が生まれている。 <b>ヒアリング記録やアンケート結果についても適切にまとめられている。</b> アンケート結果について、訪問による依頼ができたか否かで反応の傾向が異なった等、現実的な報告がされている。
重要性 について	<b>本事業は、コミュニティシネマ等を活用した居場所をつくることで、家にこもりがちな子どもたちやその家族が社会とつながり、生きづらさを解消するセーフティネットとして機能することを目的</b> としている。事前評価では、そうした課題を持った子ども・若者にとって、映画館で行われる活動が有効であるかを検証することが特に重要である。これに対して、教育委員会や中間教室へのヒアリングからは、学校の外で学ぶ重要さや民間との連携を歓迎する意見、映画の内容が教科の学習につながる、様々な大人や他者との出会う可能性があるといった見解を聞くこと…
比例性 について	課題の実情について、地元の文献を通して把握している。また、行政関係者や中間教室へのヒアリングには、専門性を持ったスタッフが担当となり、適切な量・範囲で、重要な関係者を抑えており、評価目的に応じた適切な評価方法が用いられている。

# 事例：資金分配団体 中部圏地域創造ファンド／実行団体 アイダオ

「…」以降は、システム出力の結果、非表示であったため、本資料にも反映できず

実行団体	特定非営利活動法人アイダオ
資金分配団体	一般財団法人中部圏地域創造ファンド
事業名 (実行団体)	孤独を生み出さないための居場所作りの整備
実行団体の事業実施に対する提案	<p>最終ゴールに向けては、居場所・相談窓口が常時機能していることが重要であり、それに向けて協働・連携のための資源を見出し、具体的な関係を形成する必要がある。<u>事前評価により地域の諸機関との関係づくりが進んだが、関係窓口、自治体、NPO、商店街、自治会などのつながりづくりを一層進めていくことが求められる。</u>その核として拡大連携協議会がしっかり機能することが重要であり、ワーキンググループを適宜設置する形も効果的だと考えられる。</p> <p>また、最終目的と照らし合わせると、拠点の運営に資源が集中してアウトリーチ型の支援が劣後し・・・</p>
実行団体の評価実施に対する提案	<p><u>事前評価で明確になった中間教室に通っていない子どもたちに対するアプローチ方法がないという課題</u>の解決策を具体的に設定し、その効果を検証していくことが重要である。本事業の成果として、「関心事を見つけるきっかけ支援」「他者との交流の中で自分の個性を見つめる支援」「人生を切りひらくための一歩を踏み出す支援」といった要素を持つ居場所をつくり運営する必要があり、コーディネート団体には、最終目標とする居場所の構想づくりとチーム・関係者との共有、各チームの事業の目標や相互の連関性を深く議論し、ゴールに向けてチームによる取・・・</p>



1. 【講義&事例】点検・検証について 30分
2. 【講義】中間評価に向けて 40分
3. 【ワーク&全体共有】中間評価に向けて 40分
4. 【クロージング】 5分

\* 間に休憩を 5 分間入れます。

中間評価の概要は、以下の通りです。

目的	成果の進捗状況を把握し、事業活動や予算・人材等の資源配分の見直し、必要に応じて事業計画の改善につなげることが主な目的です。その評価結果から得た知見を具体的に事業で活用し、事業終了時のアウトカムの発現に寄与することが重要です。
実施方法	事業開始後の様々な内部・外部要因の変化や、活動をとおした新たな気づき等により、活動を修正した方が良いことが明らかになることもあります。中間評価では評価計画を活用して、実施状況の分析と必要に応じてアウトカムの達成状況や効率性の分析を行い、活動やインプット（事業活動などを行うために使う資源（ヒト・モノ・カネ・情報））、アウトプットやアウトカムを見直します。事業実施中の各種記録や担当者との振り返りなども情報として活用します。
報告活用	評価結果をもとに事業計画の見直しを行います。その結果は中間報告としてまとめ、実行団体は資金分配団体に、資金分配団体はJANPIAに評価結果を報告します。必要に応じて事業計画を改訂する場合は、受益者や事業の連携者などと協議の上で、実行団体、資金分配団体、JANPIAで合意し、事業計画を改訂します。

## 1. 評価結果の報告、関係者へのフィードバック

事業の中間点では以下の内容について、実行団体は資金分配団体に報告し、資金分配団体は実行団体の中間評価内容を点検・検証し、また、資金分配団体は実行団体の中間評価結果を踏まえて、自身の中間評価を行いJANPIAに報告します。

＊ 中間評価実施時期（予定）：2021年9-11月頃

中間評価における報告内容
(1) 中間評価の結果 (2) 事業計画書（改訂した場合のみ） (3) 評価計画書（改訂した場合のみ）



# 【再掲】 中間評価に向けて



中間評価では、主に「実施状況の分析」、「アウトカムの分析」を実施します。

社会的インパクト評価	社会的インパクト評価の構成要素			
	課題の分析 (ニーズの分析)	事業設計の分析 (セオリーの分析)	実施状況の分析 (プロセスの分析)	アウトカムの分析
事前評価	検証	検証	計画	計画
中間評価	(見直し)	(見直し)	検証	検証
事後評価	振返り	振返り	検証*	検証*
追跡評価**	(振返り)	(振返り)	検証	検証

- ☐ それぞれの実施時期における主たる分析  
 ( ) 必要に応じて行う  
 \* 事業によって異なる  
 \*\* 事業の必要に応じて協議の上で行う (第2章2 参照)

本日確認するところ「その1」  
本日午前の評価パート②では、特に実行団体レベルのアウトカム評価のやり方について学びました。資金分配団体としての中間評価に向けた作業を考えます。(資金的支援を中心に)

本日確認するところ「その2」  
資金分配団体としての実施状況の分析(モニタリング)について、中間評価に向けた作業を考えます。

# 中間評価に向けて（その１）～アウトカムの確認～



その１の１：事業計画書・評価計画書のアウトカムに関わる項目をチェックし、相互の関連を確認しましょう。

## 事業計画書

中長期アウトカムに貢献する「短期アウトカム（資金的支援/非資金的支援）」が記述され、それらを測るための「指標」が適切に設定されているか、また「初期値/状態」と「目標値/状態」、「目標達成時期」が設定されているか？

(2) 短期アウトカム (資金的支援/非資金的支援)	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期

## 評価計画書

事業計画の「短期アウトカム」や「指標」「初期値／初期状態」「目標値／目標状態」を念頭に、評価計画の「アウトカムの分析」部分の記載がなされているか？

評価表  評価の要素		評価項目	評価小項目	評価基準		測定方法		
				判断方法 (指標等)	判断基準 (目標値・状態等)	必要な データ	情報源	データ 収集方法
アウトカムの分析	⑧							

# 【参考】評価計画書と事業計画書の接続



## 事業計画書

目標達成時期が事業終了時（3年後の場合）

短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
3年後に目指す状態	いかに測るか	現在の値・状態	3年後は？	3年後

## 評価計画書

評価項目	評価小項目	評価基準		測定方法		
		判断方法 (指標等)	判断基準 (目標値・状態など)	必要なデータ	情報源	データ 収集方法
⑧アウトカムの 達成度	「3年後に目指す状態」が達成されたか	指標	目標値・状態			

評価指針「別添資料2 資金分配団体向け評価小項目例」を参照。

- 実行団体の事業をととして資金分配団体が最終的に達成したいアウトカムは達成されたか
- もたらされた変化は多様な関係者間で納得のいく水準のものだったか。

# 中間評価に向けて（その１）～アウトカムの確認～



その１の２：実行団体の事業計画書とつじつまがぁっているか確認しましょう。

## 資金分配団体事業計画書

短期アウトカム（資金的支援）	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期

## 実行団体事業計画書

短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期

資金分配団体としてのアウトカム・アウトカム指標を確認する際、実行団体のアウトカム・アウトカム指標とつじつまがぁっているかの確認はしましたか？

- ・ 資金分配団体のアウトカム・アウトカム指標を一方向的に実行団体に押し付けることになっていませんか？
- ・ 逆に、実行団体のアウトカム・アウトカム指標を単に寄せ集めたものが資金分配団体のアウトカム・アウトカム指標になっていませんか？（資金分配団体としての作戦の確認）



その1の3：アウトプットとアウトカムの接合を確認しましょう。

## 事業計画書

(2) アウトカム (資金的支援/非資金的支援)	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期

短期アウトカムに貢献する「アウトプット（資金的支援/非資金的支援）」が記述され、それらを測るための「指標」が適切に設定されているか、また「初期値/状態」と「目標値/状態」、「目標達成時期」が設定されているか？

(3) アウトプット (資金的支援/非資金的支援)	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期

資金分配団体としてのアウトカム・アウトカム指標と実行団体のアウトカム・アウトカム指標とつじつまがあっていれば、資金的支援のアウトプット・アウトプット指標でも自然につじつまがあうはずですよ。確認しましょう。

# 中間評価に向けて ～評価基準・測定方法の確認～



その 1 の 4 : 評価基準・測定方法をチェックしましょう。

評価表 評価の要素		評価項目	評価小項目	評価基準		測定方法		
				判断方法 (指標等)	判断基準 (目標値・状態等)	必要な データ	情報源	データ 収集方法
実施状況の分析	⑤			A	B	C		
...								
アウトカムの分析	⑧							

評価小項目に対応するように、以下の（A）～（C）の観点で設定します。

（A）どんな指標により、事実特定と価値判断を行うのか？（判断方法）

（B）どこまでいったら良いのか？それを誰が決めるのか？（判断基準）＝事業計画の「目標値／目標状態」

（C）どのような方法でデータを集めれば良いのか？



# 【参考】定性的なアウトカムにおける「目標値／目標状態」の表し方 (ループリックの活用)



休眠預金等活用事業でループリックを作成する場合は、以下のステップで進めることをお勧めします。

**ステップ1 評価の観点を決める**  
どのような観点で評価するか考えます。評価したい点を必要に応じて更に分類します。

**ステップ2 判断の尺度を決める**  
各評価の観点について、達成レベルに合わせた目標値を考えます

観点で評価できます。  
各点を必要に応じて分類し

判断の尺度  
(達成レベルをアルファベットや数字で数段階に分けて示したもの)

評価点

レベル 1  
期待できる達成程度に達しておらず許容範囲にも到達していない  
(相当な努力を要する)

レベル 2  
期待できる達成程度に達していないが許容範囲今後の進展が期待できる  
(努力を要する)

レベル 3  
期待できる達成程度をほぼ達成  
(期待どおり)

レベル 4  
期待できる達成程度をほぼ間違いなく超えている  
(期待以上)

重要度の順序

評価観点

(A)

(B)

(C)

(D)

評価の観点 (A-D)の優先順位を決める

評価したい点を更に分類したもの

レベル 1 達成目標を記載する

レベル 2 達成目標を記載する

レベル 3 達成目標を記載する

達成目標

各評価の観点×各レベルにおいて達成目標 (出来るようになってもらいたいこと) を記す

ステップ3 評価項目の優先順位を決める

**ステップ3 評価項目の優先順位を決める**  
評価の観点のうち、どれがもっとも重要であるか考えます。事業の中長期アウトカム、短期アウトカムを踏まえ、優先順位をつけましょう。

## 【参考】定性的なアウトカムにおける「目標値／目標状態」の表し方 (ループリックの活用)



### (2020年度 資金分配団体PO研修参加者の感想)

地域の中で「頑固者のAさんがサロンに参加された！」ということは、(数字として「1人」とする以上に) 地域の中ではすごいことですが、それをどう評価したら良いのが悩ましいです。数だけで指標を設定することの危険性を感じ、その内容やエピソードが見える化することが大切だということを表現したい。定量的な指標のほうが考えやすく、定性的な指標をつくるには、もう少し実行団体となりうる現場団体の活動を知らないと指標づくりが難しいと感じました。

### (このように考えてみましょう)

定性指標を設けて、その達成度を測定するためのループリックを設定することで、当該地域にとって重要な変化に価値づけをすることができます。

例えば、「普段そのようなサロンに参加しない人が、参加するようになることこそが成果である」と関係者で合意できるのであれば、そのような状態を「望ましい状態」としてループリックが設定できます(以下は一案)。このようなものを、価値を合意したい地域の関係者と作っていくこともアプローチのひとつです。

レベル	状態
4	これまでサロンに参加しない方が、支援者からの声かけなしで当たり前に参加するようになる(目安として月X/Y回以上)
3	これまでサロンに参加しない方が、支援者からの声かけに応じて参加するようになる(声かけしないと参加しないが、声かけをすれば参加してくれる)
2	これまでサロンに参加しない方が、1回参加する
1	これまでサロンに参加しない方が、支援者からの声かけでも参加しない



**(つづき)** 例えば、以下のように事業計画に書き込むことができます。短期アウトカムに「質」と「量」の観点を加えることで、より多面的・立体的な成果の把握が可能となります。

## Ⅲ. 事業設計

(2)短期アウトカム	指標	初期値／ 初期状態	目標値／ 目標状態	目標達成 時期
これまで交流サロンに参加しなかった人が参加するようになる	対象者の 行動変容 (別添の ループリック 参照)	レベル1.3 (平均値)	レベル3 (平均値)	2024年3月
これまで交流サロンに参加しなかった人が参加するようになる	定期的な 参加人数	0	30	2024年3月

# 中間評価に向けて（その１）～評価の５原則を使った確認～



その１の５：アウトカム・アウトカム指標、アウトプット・アウトプット指標を、資金分配団体、実行団体のレベルで俯瞰してみて、評価の５原則に照らして適切なものになっているか、確認しましょう。以下は問うべき質問の一例です。

1	多様な関係者の参加、連携、協働	例) 設定されたアウトカムは事業遂行の主要な関係者間で合意できていますか？データ収集で、受益者等の関係者に過度な負担をかけることになっていないですか？
2	信頼性	例) アウトカム／アウトプット指標を使って、信頼できる方法でデータ収集ができますか？収集するデータに恣意性や偏りはありませんか？
3	透明性	例) データ収集をしている意味や意義が関係者にしっかり伝わっていますか？
4	重要性	例) 自分たちが達成したいこと測る・調べる指標の設定になっていますか？
5	比例性	例) データを収集・分析する人や組織に過度な負担がかかるようになっていませんか？

# 事例：日本国際交流センター（JCIE）事業計画改訂版

(3) 短期アウトカム（資金的支援）	指標	初期値／初期状態	目標値／目標状態
外国ルーツ青少年が就学・進学のための日本語・教科学習の方法などを知り、活用する	①外国ルーツ青少年の日本語能力の向上 ②入学・復学・進学した外国ルーツ青少年の数 ③外国ルーツ青少年の学業達成度	①日本語能力が低い状態 ②0 ③学業達成度が低い状態	①実行団体設定の目標値が8割以上達成されている状態 ②当該受益者の8割が就学を実現した回答 ③実行団体設定の目標値が8割以上達成されている
外国ルーツ青少年が長期的なキャリアプランを立てるための進路・就労等の方法を知り、活用する	①キャリア形成（進学・就職等）に向けた基本的知識の獲得の程度 ②就労分野、就職先、起業（社会的企業やベンチャー、NPO等）等キャリアイメージを具体化した外国ルーツ青少年の数 ③大学等の進学、就職した外国ルーツ青少年の数	①キャリアに関する基本的知識を持っていない状態 ②0 ③0	①実行団体設定の目標値が8割以上達成されている ②当該受益者の6割が具体化したと回答 ③当該受益者の6割が進路を実現したと回答
外国ルーツ青少年が社会とつながる方法を知り、自律的に行動する	①プログラム企画・提案・運営などに携わった外国ルーツ青少年の数 ②オフライン・オンラインの相談（専門家相談を含む）による解決数、満足度 ③公益活動団体や地域の諸団体が新たに着手した外国ルーツ青少年関連プログラムの数 ④外国ルーツ青少年のルーツに対する理解度、肯定的認識の向上 ⑤地域の関係者による外国ルーツ青少年にかかわる施策・方針の合意状況（課題の理解度、具体的な取り組みの検討回数）	①0 ②0 ③0 ④0 ⑤0	①200名以上 ②当該相談者の7割以上が解決したと回答、当該相談者の7割以上が満足したと回答 ③35プログラム以上 ④実行団体設定の目標値が8割以上達成されている ⑤地域の関係者の8割以上が課題を理解している状態。具体的な検討が年3回以上行われている状態
(3) 短期アウトカム（非資金的支援）	指標	初期値／初期状態	目標値／目標状態
1. 実行団体における組織運用能力を高め、実行団体及び関係団体による連携・協力が深まる	①実行団体及び関係支援団体による意見交換会、会議のプログラム及び議論内容についての理解度、満足度 ②組織基盤強化にかかわる研修会やワークショップの内容についての理解度、満足度、継続参加度	①0 ②0	①参加者の7割以上が、理解が深まり、かつ満足したと回答 ②参加者の7割以上が理解が深まり、かつ満足したと回答。継続参加度も7割以上。
2. ステークホルダーが外国ルーツ青少年の現状を知り、必要な支援・取り組みを検討し、実行に向けて着手する	①ステークホルダーによる取り組みの状況（意見収集、勉強会、提言、勉強会など） ②メディアによる情報発信 ③外国ルーツ青少年にかかわる調査研究の成果に対する関心の度合い ④外国ルーツ青少年にかかわる政策提言活動に対する関心の度合い	①0 ②0 ③0 ④0	①5回以上/年 ②3回以上/年 ③参加者の7割以上が、関心が高まったと回答 ④参加者の7割以上が関心が高まったと回答

# 事例：日本国際交流センター（JCIE）事業計画改訂版

(4) アウトプット (資金的支援)	指標	初期値／初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
1. 外国ルーツ青少年が適切な学校教育を受けられるような準備が整う。	①外国ルーツ青少年を対象とした日本語教室（オンライン・オフライン）の開催数・参加者数 ②外国ルーツ青少年を対象とした学習支援教室（オンライン・オフライン）の開催数・参加者数 ③就学・進学などにかかわる相談会の開催数・参加者数	①0 ②300回/年、延べ8千人/年 ③2回/年、延べ60名	①100回/年、延べ400名/年 ②700回/年、延べ18,000名/年 ③2回/年、120名/年	23年03月
2. 外国ルーツ青少年が適切なキャリア・職業教育が受けられるような準備が整う	①進路、キャリアにかかわる指導やサポート（説明会・相談会・イベント等）の開催数・参加者数 ②オンライン及びオフラインによる資格・キャリア講座の開催数・参加者数 ③外国ルーツ青少年を対象としたキャリア体験（インターンシップ、職場体験等）の実施回数・参加者数	①0 ②0 ③0	①20回以上、延べ800名以上 ②200回以上、延べ6,500名以上 ③4回以上、延べ200名以上	23年03月
3. 外国ルーツ青少年の社会参加・エンパワーメントを促進する準備が整う	①クラブ活動、交流活動、講座等に参加した外国ルーツ青少年の数 ②オフライン・オンラインによる相談・カウンセリングを受けた外国ルーツ青少年の数、アクセス数 ③情報発信数（記事・コンテンツ数等）及び会員登録者数 ④外国ルーツ青少年を新たに支援するネットワーク・地域拠点への参加団体数 ⑤教育関係者・公益活動団体関係者、ボランティア等を対象とした当該プログラム等の開催数・参加者数 ⑥アイデンティティ形成（母語・母文化教育）にかかわる教室やイベント等の開催数、参加者数 ⑦地域社会を対象とした成果発信・イベントの回数（提言・成果等の配布数、イベント・シンポジウムの開催数、参加者数）	①0 ②0 ③0 ④0 ⑤0 ⑥0 ⑦0	①延べ1,500名以上 ②延1,200名以上、3,000回以上、 ③300以上、800名以上 ④35団体以上 ⑤25回以上、延べ750名以上 ⑥350回以上、延べ7,000名以上 ⑦500冊以上、20回以上、12,000名以上	23年03月
(4) アウトプット (非資金的支援)	指標	初期値／初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
4. 実行団体における組織運用の改善の機会が増える	①実行団体や関係支援団体によるコミュニケーションや情報・課題共有のための意見交換会・会議の開催数、参加者数 ②組織基盤強化にかかわる研修会やワークショップ等の開催数、参加者数	①0 ②0	①4回以上/年、25名以上/1回 ②1回以上/年、30名以上/1回	23年03月
5. 外国ルーツ青少年の現状や法制度・政策の必要性について知る機会が増える	①ステークホルダーとの協議や意見交換会の開催数 ②メディア向けの情報提供（勉強会や資料提供など）の数 ③外国ルーツ青少年にかかわる調査研究の発信（報告書出版、報告会、シンポジウム等） ④外国ルーツ青少年にかかわる啓発活動（提言・調査、シンポジウム、イベント等）の開催数、参加者数	①0 ②0 ③0 ④0	①10以上/年 ②40回以上/年 ③8回以上 ④3回以上、500名以上	23年03月

# 事例：日本国際交流センター（JCIE）評価計画改訂版

	評価項目	評価小項目	評価基準		測定方法			評価時期 (複数可)
			判断方法 (指標など)	判断基準値 (目標値／状態など)	必要なデータ	情報源	データ収集 方法	
アウトカムの分析	⑧アウトカムの達成度	資金分配団体の活動によって企業・経済団体が外国ルーツ青少年の状況を理解し、具体的な支援に着手しているか	資金分配団体及び実行団体及び資金分配団体への企業・経済団体による支援（寄付や人的、物品などの支援の変化有無）	資金分配団体が働きかけをした企業・経済団体において何らかの支援が実施されている。	定量データ	実行団体及び資金分配団体の事業担当者、企業・経済団体の渉外・CSR等の担当者	定量データの収集	事後評価
	⑧アウトカムの達成度	実行団体の事業を通して資金分配団体が達成したいアウトカムは達成されたか	事業計画のアウトカムの視標欄に設定した視標	（目標値）事業計画のアウトカムに設定した目標値の80%以上が達成されている。	定量データ	各実行団体の記録支援及び最終評価報告	定量データの収集	事後評価
	⑧アウトカムの達成度	実行団体の事業を通して資金分配団体が達成したいアウトカムは達成されたか	事業計画のアウトカムの視標欄に設定した視標	（目標値）実行団体から新たな支援モデルの提案が見られる	定性データ	実行団体の関係者	関係者インタビュー	事後評価
	⑧アウトカムの達成度	もたらされた変化は事業の実施に起因するものか	支援未実施地域の状況と比較（支援未実施地域の協力が必要）	（目標値）支援未実施地域の変化に比較して支援実施地域の良い変化が顕著である	定量データ	各実行団体の記録支援未実施地域の統計	定量データの収集	事後評価
	⑧アウトカムの達成度	資金分配団体の活動によって社会の外国ルーツ青少年の問題についての理解は深まったか	メディア等における本テーマについての取り上げ状況（記事数、インタビュー依頼等）	（状態）多様なメディアにおいてこのテーマが多様な切口で取り上げられる	定量データ	メディアへの資料提供と関連内容の記事化、インタビュー等の依頼等	定量データの収集	事後評価
	⑧アウトカムの達成度	資金分配団体及び実行団体の活動を通して、各関係者（ステークホルダー）において外国ルーツ青少年への包括的な支援体制作りに向けた情報共有と課題解決のための定期的な議論の場が創出されたか	JICE及び実行団体の各関係者との協議の状況	（状態）JICE及び実行団体の活動地域において定期的な議論の場が作られている。	定量データ	資金分配団体及び各関係者による記録等	定量データの収集	事後評価



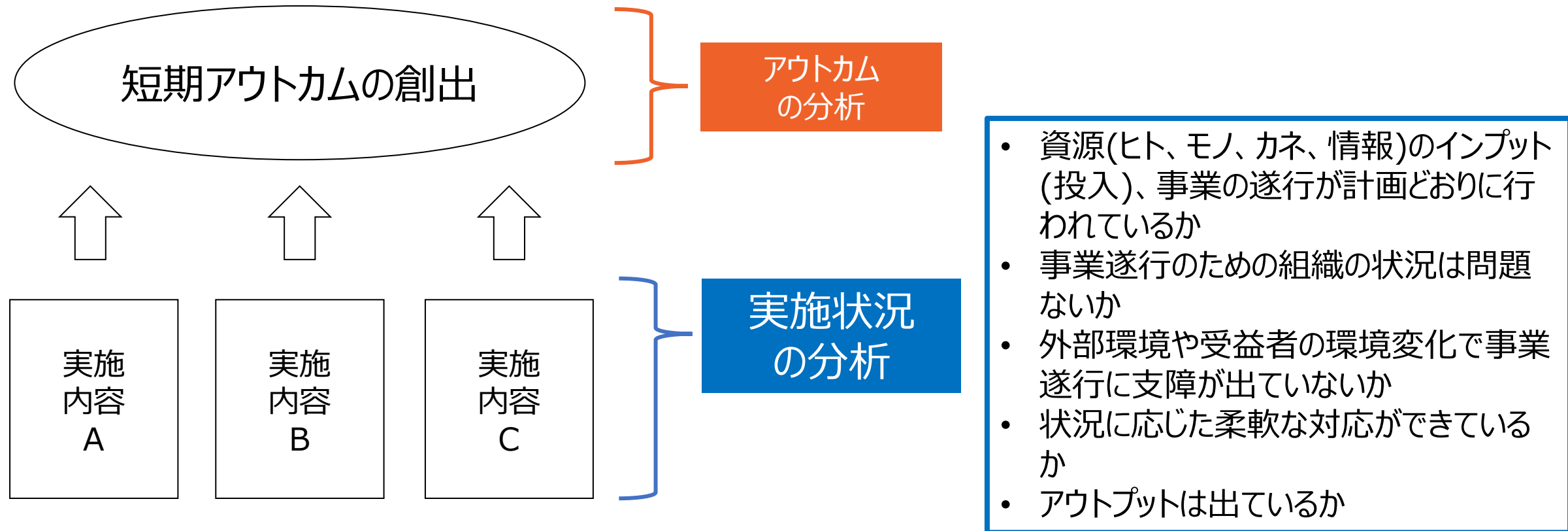
図表５－３： 共通評価項目

社会的インパクト評価の構成要素	評価項目
A. 課題の分析 (ニーズの分析)	① 特定された課題の妥当性
	② 特定された事業対象の妥当性
B. 事業設計の分析 (セオリーの分析)	③ 事業設計の妥当性
	④ 事業計画の妥当性
C. 実施状況の分析 (プロセスの分析)	⑤ 実施状況の適切性
	⑥ 実施をとおした活動の改善、知見の共有
	⑦ 組織基盤強化・環境整備
D. アウトカムの分析	⑧ アウトカムの達成度
	⑨ 波及効果
	⑩ 事業の効率性

# 中間評価に向けて（その2）～実施状況の分析～



アウトカムの分析と実施状況（プロセス）の分析は、両方とも重要です。  
事業計画をしっかりと立てていても、セオリー通りにアウトプット、アウトカムが出るとは限りません。モニタリングをすることによって、事業進捗のチェックが可能になります。以下の項目などを継続的に把握しましょう。



# 中間評価に向けて（その2）～評価小項目例～



実施状況の分析の評価小項目例です。

実施状況の 分析	<u>実施状況の適切性</u> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 事前評価以降、事業を取り巻く環境（政策、経済、社会など）の変化はないか。</li><li>■ インプットは計画どおりか（計画値との比較）。</li><li>■ 活動は計画どおりに実施されているか。</li><li>■ アウトプットは計画どおり産出されたか（目標値との比較）。</li><li>■ 事業目標の達成の見込みはあるか（目標値との比較）。</li><li>■ 意図した対象者に事業は届いているか。</li><li>■ 活動を実施する上で支障となる問題は起きていないか。その原因は何か。</li><li>■ 当初設定された目標に対し、課題として想定されていた事項の解消に向けた活動の進捗は順調か。</li><li>■ 関係組織との連携は十分か。</li><li>■ 計画に沿って活動を行うために、過不足ない量・質のインプットがタイミング良く実施されたか。実施されているか。</li><li>■ 事業の運営管理体制に問題はないか（進捗管理の仕組み、意思決定過程など）。</li><li>■ 今後留意していかなければならないことは何か。</li><li>■ 実行団体による活動は計画どおりに実施されているか。</li><li>■ 実行団体が必要とする伴走支援を提供できているか。</li></ul>
-------------	--

出所：資金分配団体・実行団体に向けての評価指針



# 中間評価に向けて（その2）～評価小項目例～



実施状況の分析の評価小項目例です。

	<p><u>実施をとおした活動の改善、知見の共有</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ アウトプット発生に影響を与えた阻害・貢献要因は何か。</li><li>■ 事業の進捗において必要な実施事業の見直しが行われているか。</li><li>■ 事業設計の実行が計画どおり行われなかった場合、原因の分析はされているか。</li><li>■ 事業を通して新たなアイデアが生まれたか。</li><li>■ 事前評価時に指摘された問題・課題・リスクは、どのように変化しているか。</li><li>■ 今後留意していかなければならないことは何か。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 資金分配団体及びプログラム・オフィサーは実行団体への支援を通じて得た情報を十分に活かし学びを改善につなげることができているか。</li><li>■ 資金分配団体は実行団体からの先進的な活動を学ぶとともにその知見を広く共有できるように整理・蓄積しているか。</li></ul>

# 中間評価に向けて（その2）～評価小項目例～



実施状況の分析の評価小項目例です。

	<p><u>組織基盤強化・環境整備</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 人材（事業を効果的に実施する、あるいは適宜評価できる）は育っているか。</li><li>■ 「学習する組織」として成長しつつあるか（7章 2（2）参照）。</li><li>■ 事業の運営管理体制（進捗管理の仕組み、事業への人員体制、意思決定過程の整理など）に問題はないか。</li><li>■ 組織の体制・事業体制は事業目標に対して適切かつ十分か。</li><li>■ 組織体制・事業体制に変化はあったか。</li><li>■ 組織の財政状態・財務体質に変化は生まれているか。</li><li>■ 組織の財政的な成長につながっているか。</li><li>■ 新たに構築された人や団体との協力・連携関係はあるか。</li><li>■ プログラム・オフィサーを含め、内部に具体的な伴走支援のノウハウを蓄積する体制を整備しているか。</li><li>■ 総合的な判断として、実行団体の組織基盤はどの側面でどの程度強化されたか。それは何のためによるものと考えられるか。</li><li>■ 包括的支援事業の在り方に関する知見や経験を蓄積する体制を整備しているか。</li><li>■ 当該分野や地域を取り巻く環境に変化は生まれているか。</li><li>■ 事業の実施に必要な環境づくりに関する活動によりアウトプットは計画どおり産出されているか。</li><li>■ 環境整備にかかる活動やアウトプットは十分に達成されているか。</li></ul>
--	--

出所：資金分配団体・実行団体向けの評価指針

事例：日本国際交流センター（JCIE）評価計画改訂版

	評価項目	評価小項目	評価基準		測定方法			評価時期 （複数可）
			判断方法 （指標など）	判断基準値 （目標値／状態など）	必要なデータ	情報源	データ収集方法	
実施状況の分析	⑤実施状況の適切性	実行団体による活動は計画どおりに実施されているか	①計画どおり、②やや計画どおり、③あまり計画どおりでない、④計画どおりでない、の4件法	（目標値）8割以上の実行団体が①と②回答する	定量データ	実行団体関係者	アンケート調査	中間評価
	⑤実施状況の適切性	実行団体による活動は計画どおりに実施されているか	事業関係者及び外部の専門家による合意	実行団体の活動が計画どおりに実施されていると認められる	定性データ	資金分配団体による実行団体の活動にかかわる記録及び関係資料	直接観察	中間評価
	⑤実施状況の適切性	資金分配団体のPOによる伴走支援は、実行団体のニーズに応じて適切に実施されているか。	①非常にそう思う、②おおむねそう思う③どちらでもない④あまりそう思わない⑤全くそう思わない、の5件法	（目標値）8割以上の実行団体が①と②と回答する	定量データ	実行団体関係者	アンケート調査	中間評価
	⑤実施状況の適切性	事業の実施・運営・管理体制に問題はないか	事業関係者及び外部専門家による合意	事業体制について事業関係者及び外部専門家が肯定的に評価できる	定性データ	事業関係者による記録及び関係資料	フォーカスグループディスカッション	中間評価
	⑤実施状況の適切性	資金分配団体による啓発・アドボカシー活動は計画通り実施されているか。	調査・勉強会等の実施状況（回数、参加者数、調査結果の公表等）についての評価	実施状況について事業関係者及び外部専門家が肯定的に評価できる	定性データ	活動の記録・報告及び参加者によるフィードバック	フォーカスグループディスカッション	中間評価
	⑤実施状況の適切性	外国ルーツ青少年への包括的支援体制の構築に向けて各関係者（ステークホルダー）による実践の具体化はみられているか	各関係者（ステークホルダー）による取り組み・連携についての検討状況	各関係者（ステークホルダー）による具体的な検討が開始されている	定性データ	NPO, 専門家、行政企業、メディア等の関係者	関係者インタビュー	中間評価
	⑤実施状況の適切性	資金分配団体及び実行団体は事業実施において新たな支障も含む障壁・リスクを適切に把握し、対処しているか。	資金分配団体及び実行団体による協議及び記録	資金分配団体及び実行団体により適切に対処していると合意できる	定性データ	資金分配団体及び実行団体関係者	関係者インタビュー	中間評価
	⑥知見の共有、活動の改善	事業を通して、各関係者（ステークホルダー）において外国ルーツ青少年への包括的支援体制の構築の必要性は理解されているか。	各関係者（ステークホルダー）における支援・連携方法についての認識・理解	各関係者（ステークホルダー）が支援・連携方法について十分に認識している。	定性データ	NPO, 専門家、行政企業、メディアの関係者等	関係者インタビュー	中間評価
	⑥知見の共有、活動の改善	資金分配団体及び実行団体は活動・事業から得られた知見・ノウハウを広く共有できるように整理・蓄積しているか	資金分配団体及び実行団体による活動・気づき等の記録	資金分配団体及び実行団体により適切に整理・蓄積されていると合意できる	定性データ	資金分配団体及び実行団体関係者	その他	中間評価
	⑥知見の共有、活動の改善	実行団体同士が知見・ノウハウ等を共有する機会が適切に計画され、実施されているか	資金分配団体による実行団体間のネットワークの形成状況	（目標値）8割以上の実行団体が肯定的な評価をする。	定量データ	実行団体関係者	アンケート調査	中間評価
	⑦組織基盤の強化	総合的な判断として、実行団体の組織基盤はどの側面でのどの程度強化されたか。それは何のためによるものと考えられるか	（実行団体の）財政状況、人材の育成状況、ネットワークの構築状況等	（目標値）8割以上の実行団体が肯定的に評価できる状況である	定性データ	実行団体関係者	アンケート調査	中間評価
	⑦組織基盤の強化	資金分配団体及び実行団体において各関係者との連携・協力体制が適切に形成されつつあるか	各関係者によるネットワークへの参画状況（団体数・コミュニケーション状況、会議等の開催数など）	（目標値）連携・協力による新たな活動・事業が5つ以上生まれた。	定量データ	資金分配団体及び各関係者による記録等	定量データの収集	中間評価

1. 【講義&事例】点検・検証について 30分
2. 【講義】中間評価に向けて 40分
3. **【ワーク&全体共有】中間評価に向けて 40分**
4. 【クロージング】 5分

\* 間に休憩を 5 分間入れます。





## ブレイクアウト・セッション（30分）

資金分配団体としての「現在地」と、1年後にやってくる中間評価に向けて、団体内と担当 JANPIA POで確認しましょう。その際、以下をチェックポイントで使ってみましょう。

### チェックの観点

- ① 課題の分析、事業設計の分析（事前評価）からの学びを反映した「**短期アウトカム（資金的支援/非資金的支援）**」が記述されているか？（事業計画書）
- ② 資金的支援/非資金的支援において、「**アウトプット**」と「**短期アウトカム**」の**接合**は問題ないか？（事業計画書）
- ③ 短期アウトカム／アウトプットを測るための**適切な指標設定**ができているか？（事業計画書）
- ④ **実行団体のアウトカム指標／アウトプット指標**とつじつまがあっているか？
- ⑤ 設定した指標の「**初期値/状態**」は、把握できているか？（事業計画書）
- ⑥ 設定した指標の「**目標値/状態**」、「**目標達成時期**」の設定は、適切か？（事業計画書／評価計画書）
- ⑦ 「アウトカム/アウトプット」の「**測定方法**」は、適切か？（評価計画書）
- ⑧ **実施状況の分析**は中間評価に向けて適切に設定されているか（評価計画書）
- ⑨ 以上について、**評価の5原則**に照らし合わせて適切性をチェックしたか？

全体共有（10分）

ブレイクアウトルームで議論を行う中で、  
気がついたこと、疑問に思った点等を  
チャットで共有しましょう

1. 【講義&事例】点検・検証について 30分
2. 【講義】中間評価に向けて 40分
3. 【ワーク&全体共有】中間評価に向けて 40分
4. 【クロージング】 5分

\* 間に休憩を 5 分間入れます。

## (1) 継続的な進捗管理

資金分配団体は6か月ごとに実行団体の進捗管理を行います。実行団体の事業が計画どおりあるいは状況に応じて適切に実施されているか、進捗状況の確認、共有を行い、必要に応じて、協力・支援・助言等を行います。主に以下2つの内容を実施します。

### ① 実行団体の進捗報告の確認

実行団体は事業計画に沿って事業の進捗状況を報告します。その際、資金分配団体は、実行団体が事前に設定した各種指標の測定結果を確認することで、実行団体の事業が計画どおりに適切に実施されているか、計画と異なる場合に柔軟かつ的確な対応ができているかを確認し、必要に応じて対応策を検討、協議します。

### ② 現地調査を含む実行団体の活動内容の観察と対話

適宜、実行団体の実施状況について協議し、必要に応じて現地調査を含めて事業内容の観察を行い、事業が適切に実施されているかを確認します。実行団体と対話し状況を把握することで、必要と考えられる協力・支援・助言等を行います。



評価をうまく使いこなせるといいですね。  
仲間として情報交換、協力体制を  
つくっていきましょう。